

公共政策学部及び公共政策学部各学科のアドミッション・ポリシー

教育の理念・目標

公共政策学部は、生涯にわたる人間発達を多様に実現しうる社会（福祉社会）を、個人、NPO（特定非営利活動法人）、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くために、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材、地域における福祉や人間形成の担い手となる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学部では、次のような能力を身につけている学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する十分な基礎学力
- 2 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力
- 3 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 4 志望分野に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

公共政策学部では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストと個別学力検査を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

各試験における審査の観点や判定方法等は、各学科がそれぞれ具体的に定めています。

〔公共政策学科〕

公共政策学科は、福祉社会の創造を目的として、法学・政治学・経済学をはじめとする社会科学の諸分野から公共政策のあり方についての教育研究を行い、地域・自治体の政策立案及び管理運営に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学科では、住民が心ゆたかに暮らせる地域づくりにとって必要かつ有用な法学、経済学、政治学の理論を修得し、地域社会が抱える問題を的確に把握するとともに、それを解決するための政策を立案する能力を養い、さまざまな個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政など多様な主体が協働して築き上げる「公共政策」のあり方を学びます。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考査し、入学者を選抜します。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科（国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語）についての基礎学力
- 2 日本語および外国語の文章読解力および文章作成力
- 3 現代社会の制度・政策に対する関心・理解
- 4 国・社会・地域の発展のため、制度・政策の問題点を発見し、解決しようとする意欲
- 5 現代社会が求める幅広い思考力、柔軟な発想力および表現力
- 6 地域（社会）と積極的に関わり、修得した能力・知識を活用して地域（社会）に貢献するとともに、自己実現を目指す意欲

【入学者選抜の方針】

公共政策学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストおよび個別学力検査（調査書を含む）を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜を実施します。

●一般選抜（前期日程・後期日程）

▼大学入学共通テスト：公共政策学が学際性を有しその研究には幅広い知識を要することから、高等学校等で履修する主要科目（国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語）について、文理の別なく、基本的な知識を有するかを考査します。

▼個別学力検査：前期日程では、英語と国語を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を有するかを考査します。後期日程では、小論文を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定します。また、両日程ともに、調査書を通して、学科の教育研究領域への関心および多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを評価します。

●学校推薦型選抜

調査書および志望理由書により、地域貢献および自己実現に求められる主体性および積極性を評価し、小論文において、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、自分の言葉で表現できる能力を有するか、さらに、実証研究に必要なデータ分析能力を有するかを評価します。また、推薦書および志望理由書によって、学科の教育研究で必要となる問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを評価します。

〔福祉社会学科〕

福祉社会学科は、福祉社会の創造を目的として、社会福祉学・社会学・教育学・心理学等の諸分野から教育研究を行い、地域の福祉と人びとの生涯発達に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

福祉社会学科では、社会福祉学・社会学・教育学・心理学などの専門分野の教育研究を通して、人々が直面するさまざまな生活問題や福祉ニーズに対応し、人々の生活を支援する政策・制度・方法と実践のあり方を学ぶ（社会福祉学群）とともに、人間の成長・発達や行動・相互作用、そして教育のあり方について科学的な理解を養います（人間形成学群）。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考査し、入学者を選抜します。

【入学前に身につけているべき知識および能力】

- 1 高等学校等で修得する諸教科（国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科）についての十分な基礎学力
- 2 人間の福祉と社会連帯のあり方に対する実践的な関心と、地域や社会の現実的問題に対する理解
- 3 人間の発達、行動、教育と社会形成に対する課題の理解や、その解明に対する強い関心
- 4 福祉・社会・教育・心理の問題を論理的に考え、自分自身の意見を持ち、それを整理して表現できる基礎学力

【入学者選抜の方針】

●一般選抜（前期日程・後期日程）

▼前期日程・後期日程ともに大学入学共通テストの5教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の試験科目を通して、高等学校での基礎的諸教科の学力を十分に備えているかを判定します。

▼福祉、社会連帯、地域、人間の発達・教育、社会形成といった多様な人々の関わる問題を考え抜く論理的な思考力・判断力、そしてそれらに対する自分の考えを表現する力を見るため、大学入学共通テストの地歴・公民の配点を他教科の2倍にし、前期日程個別学力試験では国語と英語を、後期日程の個別学力試験では小論文の試験を実施します。前期日程は基礎学力を重視するのに対して、後期日程では学科での学びに関連する多様な資料を理解した上で自分の考えを展開する論理的な思考力を重視します。

▼調査書を通して、学科の教育研究領域への関心および多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを評価します。

●学校推薦型選抜

高等学校における基礎的諸教科について優秀な成績を修めた受験生を対象として、福祉社会の実現に関する諸問題を扱った文章や数量データを読み解き、自分自身の答えを論理的に導き出し、まとめあげる力を調べる小論文の試験を実施し、学科の教育研究に適した能力を有するかを評価します。また、推薦書・調査書・志望理由書によって、学科の教育研究で必要となる福祉・地域・人間発達・教育の問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを評価します。